

家庭で できる学力アッププロジェクト

県教育委員会では、平成26年度から「とちぎっ子学習状況調査」を実施しています。これまでの調査結果から、学力と家庭での学習や過ごし方との間に、深い関係があることが分かってきました。本資料では、特に、学力と関係が見られる「7つの習慣」をお示しします。

チェックして
みましょう！



学力を伸ばす

7つの習慣

✓ 家庭での学習

- 学校の宿題をしている
- 授業の復習をしている
- テストでまちがえた問題を勉強している
- 自分で計画を立てて勉強している

✓ 家庭での過ごし方

- 時間を上手に使うことを心がけている
- メールやインターネット、ゲームをする時間が少ない
- 家の人と学校での出来事を話している



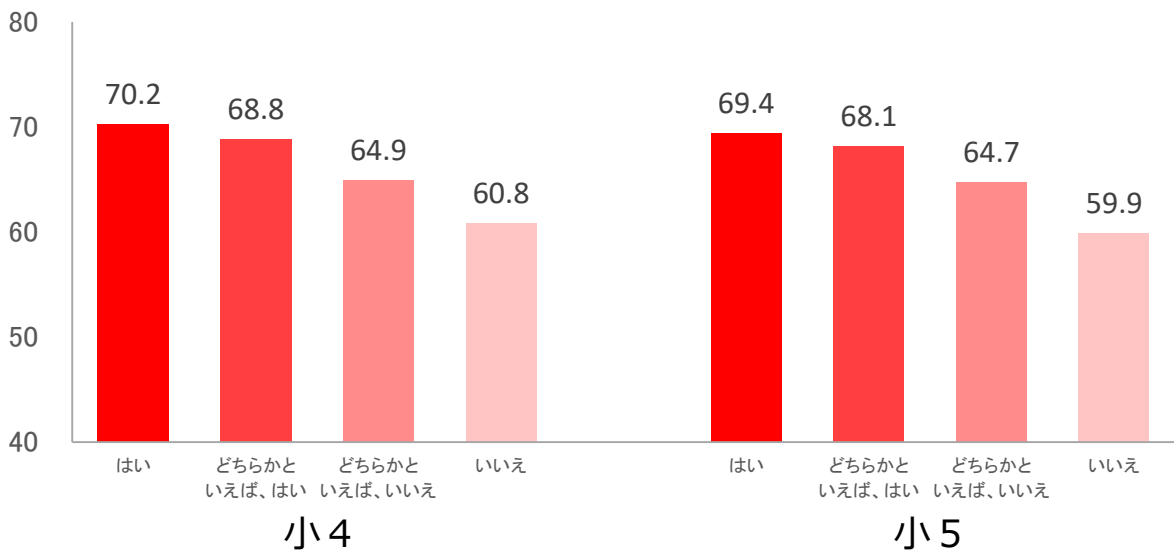
学力と家庭での過ごし方にどんな関係があるの？

とちぎっ子学習状況調査は、小学校4・5年生を調査対象として、毎年4月に、教科に関する調査（国語、算数、理科）と家庭学習や生活習慣などについての質問紙調査を実施しています。

県全体での、教科に関する調査結果（平均正答率）と質問紙調査の回答を関連付けて分析すると、平均正答率と児童の回答状況の間に関係が見られました。ここでは、その関係について、質問紙調査「時間を上手に使うことを、心がけていますか？」を例に、下のグラフを使って紹介します。

質問：時間を上手に使うことを、心がけていますか？

平均正答率(%)



【グラフの見方】

縦軸は平均正答率、横軸は上の質問に対する児童の回答です。

小4のグラフを例にすると、質問に対して「はい」と回答した児童の平均正答率が70.2%、「いいえ」と回答した児童の平均正答率が60.8%ということを示しています。

※ グラフは、国語、算数、理科の3教科をまとめた平均正答率と質問紙調査の関係を示しています。

上のグラフから、小4でも小5でも、この質問に「はい」「どちらかといえば、はい」と肯定的な回答をしている児童の方が平均正答率が高い傾向が見られることが分かります。

とちぎっ子学習状況調査の結果から分かることは学力の一部ではありますが、このような分析を通して見えてきた特徴をまとめたものが、「学力を伸ばす7つの習慣」です。本資料を「家での時間を上手に使うために、勉強する時間や寝る時間を決めて過ごしてみようか。」など、お子様とお話をする際の参考にしてください。